



## (1) 三の塔跡 : 田園

二の塔跡は能代川を堰き止めた用水堰の一つ、川口堰または五ヵ村堰とも呼ばれ、草水の一の堰、篠谷の二の堰に次いで元和9年（1623年）に完成された。当時は舟運と北陸との往来に役立たれたが、取水が不便であったため、3年後の明暦2年（1656年）に川口堰が設けられた。この堰は秋田地区3.80ヘクタールの美田を潤し、実権往來の生命線であった。

堰は年々八夜改修を繰り返すが数日前より、ヨシ・カヤ・土等で堰を止めかる上陸と呼ばれる方法で壊されていった。

この仕事を「水戸ぬけ皆舟」と言ふ間に金村が剥出であつたり、吳六代力を惹いた事であったが、せっかく苦労して上げた堰も二百十日を過ぎると舟荷の船を運んだために取り壊される運命であり、今尚この間の豪傑、削竹が銘り返されてきた。

大正6年に堰堤を改修され、その後昭和41年に再び改修され、その後昭和41年と42年（1966, 67年）の2年続の大水害を撫で去るにあつて、この土塁の様子を描いた看板が立てられ、昔の面影を伝えている。

## (2) 婆池 : 田園

川口諏訪神社境内にあった池にまつる伝説です。

『蛇になった娘（ほば）』

昔、いじわらしくいびりのお婆がお寺参りに行きました。お婆が出かけた後、娘が味噌を食うと蟲の中にいると、味噌たる虫に大きめの大蛇をくわえていました。びっくりして娘は、すぐさま家に戻り、火を真っ赤に燃へて、蛇の頭に押し当てました。するとその時、お寺でお坊さんのお説教を聞いていたいわむお婆が「ギヤー」と、ひたいを押されて倒れました。

驚いた周りの人々が助け起してみると、娘に熱い火を押し当てるようやく火が吹き出しました。

お婆は、娘に大事な味噌を勝手に使わせたくない一心で、そのいじわらしが娘になっていたのでした。お婆は恥ずかしさのあまり、ここにあった池に投げ、火炎になって池の底に姿をかくしてしまいました。

それ以来村人はこの池を婆池と呼ぶようになった。

## (3) 生き地蔵 : 田園

川口の古觀寺境内にお祀りされているお地蔵さまで、その辺小町賀野川の堤防に祀りされていたおり、豪雨で堤防が決壊した際に生き残った村人を祀る地蔵です。

其のことです。大雨が続き、小阿賀の川の水位が増してきました。三日目の夜中すぎのことです。雨の中を渡り、笠もつけずに大声で「おい、土手が切れんぞ」と、村人を起こしてまわった者いました。

村人はびっくり仰天、早速土手にかけ、切れかけた場所に杭を打ち、土糞を積んで立て、土手を守りました。

別説、お地蔵さまは全身泥だらけになっていました。夜中に村人を起こしてまわったのは、このお地蔵さまだったとわかり、一層大切にされるようになりました。



## (4) 改觀寺の梵鐘 : 田園

当初からの梵鐘は精錬中の金属供出に供され、その後に代替として製作されたものとの図録です。

物資不足時代で製作されたためか、ビビが入ってしまいました。

戦争の轟きを物語る証として、またこの梵鐘には、製作時に淨財を御寄贈された多くの方々の名前が記されています。事から、大切に保存されています。



## (5) つぶて石 : 田園

伝説で、「乱暴者の大隊兵をこらしめよう」と、佐奈神明が御宿近くの大石を投げると三日二夜がかりで飛んできて、大歳の庭に当り、それがもとで大歳は死んだ」と伝えられています。

『神さまの投げた石』

昔、このあたりに大隊兵という乱暴者が住んで居り、そのあまりのひどさに、村人に大変困っていました。

これをいたる神の神さまは、大歳は怒りになり、大歳が石を投げたとき、神社にあった大石を大隊兵がかけて投げつけました。石はかなり大きめで、石は三日三夜がかりでどこまで走っていました。

大隊兵をいたる神は、近くの温泉で治そうとしたが傷は癒えず、どううそののがもとで死んでしまいました。

この石は「大歳のつぶて石」とか「佐奈神明の投げ石」と呼ばれるようになりました。

また、以前は祠もあったそうですが、



## 萩川をもっと知ろう 萩川再発見ロードマップ



## (9) 萩島不動様 : 休憩

ご本尊は不動明王様で、萩島町内の「お不動様講中」の皆さんが萩島の神社近くに奉行役り、お祀りされています。

その後、講中の会がお休み、既往の場所に移され、「日の神様」として信頼を深めています。

またそれは別に、火の神様として古絆神社より、「古絆講中」に分量戴き信仰してきた。これらも会員が贈えたの機に、お不動様に合祀した。

現在は、木津に祀られている薬師神社を引き、毎年4月1日にお祭りを行っている。



大正7年（1918年）12月、47歳で他界された。2年後の大正9年に那須有志の手で守護の廟境内に新廟碑が建立され道標を後世に伝えることとなった。



## (11) 田中定吉渡しの碑 : 游歩

小河賀野川を挟んだ大蔵と木津を結ぶ渡船の頭として、村人の足の確保のためにその生涯を捧げた。



## (8) くろ土記念碑 : 休憩

くろ土詩社の発祥の解説後に編成された「ひしの実詩社」の機関誌として、昭和29年（1954年）に「くろ土」が創刊され、現在まで発刊が続いている。

昭和45年（1970年）活動を終した有志の方々により、主宰者田嶋長藏（ペニネーム桜木木代）の歌会が詠る法被寺境内に建立された。



## (10) 高橋政芳の碑 : 游歩

明治9年（1876年）萩島の高橋政芳の長男として生まれ、幼名を吉治と。仏門に入り修行僧にて、主筆者田嶋長藏（ペニネーム桜木木代）の歌会が詠る法被寺境内に建立された。

特に、当時青年会の趣旨を理解せぬ一部村人の非難を浴びながら、茶屋酒と嗜みのほか遊びを知らない若連中に青年会を作り、組織化を成すなど、精神的開拓をなした功績は多大であった。

## (2) 婆池 : 田園

川口諏訪神社境内にあった池にまつる伝説です。

『蛇になった娘（ほば）』

昔、いじわらしくいびりのお婆がお寺参りに行きました。お婆が出かけた後、娘が味噌を食うと蟲の中にいると、味噌たる虫に大きめの大蛇をくわえていました。びっくりして娘は、すぐさま家に戻り、火を真っ赤に燃へて、蛇の頭に押し当てました。するとその時、お寺でお坊さんのお説教を聞いていたいわむお婆が「ギヤー」と、ひたいを押されて倒れました。

驚いた周りの人々が助け起してみると、娘に熱い火を押し当てるようやく火が吹き出しました。